

# 学童期の発達障害

— 特性に応じた理解と支援 —



栃木県発達障害者支援センター ふぉーゆう  
(とちぎりハビリテーションセンター内)

## 発達障害とは？

発達障害とは、人が育っていく発達過程において、脳の機能に育ちにくい部分があったり、うまく働かなかったりして、日常生活に何らかの支障をきたしているような状態を指します。

自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他これに類する脳機能の障害であってその症状が通常低年齢において発現するもの

- 言葉の発達の遅れ
- コミュニケーションの障害
- 対人関係・社会性の障害
- パターン化した行動、こだわり

知的な遅れを伴う  
こともあります

自閉症

広汎性発達障害

アスペルガー症候群

注意欠陥多動性障害 ADHD

- 不注意（集中できない）
- 多動・多弁（じっとしていられない）
- 衝動的に行動する（考えるよりも先に動く）

学習障害 LD

- 「読む」、「書く」、「計算する」等の能力が、全体的な知的発達に比べて極端に苦手

- 基本的に、言葉の発達の遅れはない
- コミュニケーションの障害
- 対人関係・社会性の障害
- パターン化した行動、興味・関心のかたより
- 不器用（言語発達に比べて）

引用：発達障害情報・支援センターホームページ  
「発達障害の理解のために」

### 自閉症、アスペルガー症候群、その他の広汎性発達障害

これらはみな自閉的な特性を持つ状態です。これらを含めて「自閉症スペクトラム」というまとまりでみる考え方もあります。主な特徴として、以下のようなことがあります。

- 対人的な関わりや社会性の困難**  
他の人と関わろうとしない、また関わり方が一方的である。  
他の人と共感したり、やり取りをすることが難しい。  
相手の視点でものごとを考えることが難しい。
- コミュニケーションの困難**  
交互に会話をすることが難しい。言葉の使い方がパターンのである。  
他の人が言った言葉の表面的な意味だけに注目してしまう。  
たとえ話、冗談、ユーモア、「～のつもり」の理解が難しい。
- 想像力の困難**  
特定のものにこだわる、変化や変更を嫌がる。  
ごっこ遊びなどの想像的な遊びや活動が苦手である。
- 感覚の過敏さ・鈍感さ**  
特定の音や声を嫌がる。  
痛みに敏感だったり、逆に鈍感だったりする。  
臭いや味覚の過敏さからくる偏食がある。  
触覚の過敏さから、スキンシップを嫌がる。

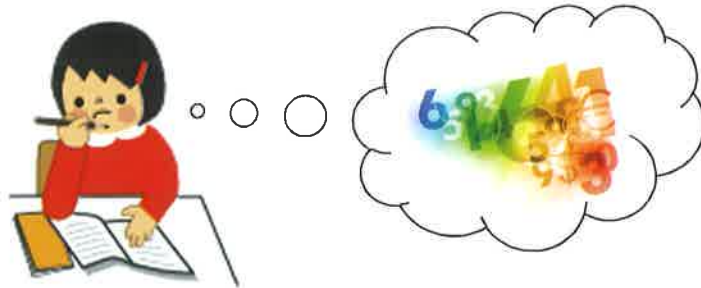


## 学習障害 (LD : Learning Disabilities)

学習障害 (LD) は、知的発達に遅れがないのに、学習に困難を示すような状態です。文部科学省の報告書では次のように定義されています。

学習障害とは、基本的には全般的な知的発達に遅れはないが、聞く、話す、読む、書く、計算する又は推論する能力のうち特定のものの習得と使用に著しい困難を示す様々な状態を指すもの

なお、この学習困難は、視覚や聴覚の障害、知的障害など他の障害が直接の原因であったり、環境的な要因によるものではありません。



## 注意欠陥多動性障害 (ADHD : Attention Deficit Hyperactivity Disorder)

ADHDとは、年齢や発達に比べて不注意（注意集中の困難さ・気が散りやすい・忘れっぽい、など）、多動性（座っていることができない・じっとしていない・しゃべりすぎ、など）、衝動性（質問が終わる前に話し出す・突発的な行動・順番を守ることが困難、など）が著しく、社会生活や学業に支障をきたしている状態です。



### 大切なのは

発達障害はその人の特徴（脳の機能のタイプ）であるため、育て方や環境によって、発達障害になるというものではありません。

どの特徴が強いのかは同じ障害でも一人ひとり違い、成長によっても変化します。

そのため、困難や問題がある場合にはその子の特性や状態をよく理解して、それぞれに合った支援を行う必要があります。

なるべく早い時期から周囲が理解して、適切な支援を行うことによって、発達を促したり、本人のつらさや困難を軽減することが可能です。

## 学童期の発達課題

### 低学年

学校や地域での生活を通して社会的なスキルを習得し、集団生活への適応力を向上させることがねらいとなります。そのための課題としては次のようなものがあります。

- 読む、書く、計算するなど基礎的な学習能力を向上させる。
- 集団生活のルールを学ぶとともに、友達などの関わりを通してセルフコントロールを覚える。
- 買い物、公共の交通機関の利用などを通して、社会的な習慣やマナーを学んでいく。
- 友人と親しい関係ができる。

### 高学年

主体的に行動できるように社会的な生活能力を向上させるとともに、社会の成員としての認識を高めることがねらいとなります。そのための課題としては次のようなものがあります。

- 学習したものを生活の場に活かすことができる。
- セルフコントロール力を高め、他の人と協調して課題を成し遂げることを学ぶ。
- いたわり、なぐさめ、励ましなど、他者への情緒的な関わりがもてるようになる。
- 社会的なマナーを獲得し、場にふさわしい行動ができる。
- 小遣いで金銭管理を学習する。

発達障害の子どもたちは、認知のアンバランス、対人関係やコミュニケーションの困難さ、行動の問題を持っているため、一つひとつの課題を達成させることに難しさがあります。しかし、正しい理解と適切な支援によって、発達を促し、困難を軽減することができます。

## 支援の手だての基本

### 安心して課題に取り組める環境の設定

「できた！もっとやってみよう」という気持ちを高めていくことが大切です。そのためにも、落ち着いて、安心して課題にチャレンジできる構造化された環境、やさしく支援してもらえる協力関係、などを整えていく必要があります。

### 課題の分析と能力の評価

難しいかなと思われる課題であっても、手順をわかりやすくしてあげると達成することができます。課題を達成することができるように、道筋を考えてあげましょう。

課題達成のための能力を「わかる（知識）」「できる（技術）」「かかわり（社会性）」に分けて評価し、つまづきを克服できるようにしましょう。

例「ドッジボールを楽しもう」

知識：ドッジボールのルールを知っているかな？

技術：ボールを投げる、受け止めることができるかな？

社会性：ボールをやりとりして、みんなと楽しくできたかな？

### 支援の見直し

もっとやってみようという動機づけは高まりましたか？  
友達関係は広がりましたか？  
心は豊かになりましたか？





## 支援のポイント

### コミュニケーション

- 質問されたときに、意味がわからないとオウム返しで答えることがあります。短く具体的にわかりやすい言葉を用いて質問しましょう。
- たくさん話しをすることができても、言葉だけでは理解することが難しいことがあります。絵や図、文字やジェスチャーなどの視覚的な手がかりを用いて話しましょう。
- 友達と話しているとき、相手の気持ちを考えずに一方的に自分の関心あることを話すことがあります。相手の話を聞くことを教え、また交互に話すことを教えましょう。
- 相手の言った言葉の裏にある気持ちを受け止めることが難しいため、友達とトラブルになることがあります。友達がどのような気持ちで言ったのかを教え、誤解したり、誤解されることのないようにしましょう。
- 思いやりの気持ちがあっても言葉でうまく伝えることができないことがあります。子どもの気持ちを受け止め、どのように言えばよいかを教えましょう。

### 感覚の過敏さ

聴覚や触覚などの感覚が他の児と異なる場合があります、強く感じると不安になりパニックになったりします。

- ざわめきや特定の音が苦手な場合は、耳栓をしたり、静かな環境を整えてあげることが必要です。
- 臭いや味に敏感なために食べ物が限定され、偏食になってしまうことがあります。無理に食べさせないようにしましょう。

### かんしゃく・パニック

感覚の過敏さによる不快感や、状況が理解できないことや、先の見通しがもてない不安感から、かんしゃくをおこすことや、パニックになることがあります。

- パニックのときは安全に気をつけて、気持ちが落ち着くまで、そっとしておいてあげましょう。
- 原因がわかる場合は、その原因となるものを取り除きましょう。また落ち着いた後で、今度イライラしたときはどのように行動したらよいかを教えましょう。
- 活動の予測や状況が理解できるように工夫し、頑張って取り組めるように配慮しましょう。

### 課題への取り組み

注意の集中が難しいため、ひとつの作業や課題を続けることが苦手なことがあります。また、一度にいくつもの指示が与えられると、何からやればいいのか、どこから手をつけてよいかわからなくなり、結果的に作業や課題が中途半端になってしまうことがあります。

- 作業や課題を取り組みやすいように分けて、一つずつ指示してあげましょう。また、指示を忘れないように紙に書いてあげましょう。
- 作業や課題の流れを図示すると、どのようにすればよいかわかるので取り組みへの動機づけを高めることができます。



## 学校生活

### 授業への取り組み

着席していても落ち着きがなく、先生の話聞き取ることができず、授業に取り組むことが難しいことがあります。

#### クラスの中は静かですか？

ざわついていると先生の話聞き取ることができにくくなるため、落ち着かなくなってしまう。また音への過敏さがあると、友達の話し声を騒音のように感じ、不安に思うことがあります。

#### 教室のどこに座席がありますか？

注意を集中させることが難しく、周りの刺激に反応しやすい場合は、座席の位置を考えてあげましょう。

#### 苦手なことはありますか？

読む、書くことの難しさがあると、国語が苦手となります。不器用さがあると、図工や家庭科が苦手となります。運動のバランスが悪いと、体育が苦手となります。音への過敏性があると、音楽が苦手となります。苦手なことに対しては問題点を整理して、学びやすい方法を考えていきましょう。

### 集団活動

クラスの活動やグループ学習に参加することができず、勝手に行動し、周りから注意されたりすることがあります。

#### 活動の見通しが理解されていますか？

見通しが持てるように活動内容、活動量、活動の始まりと終わりなどを教え、活動に参加しやすいようにしましょう。

#### 活動に集中できる環境になっていますか？

気になるものがあったりすると活動に集中できません。活動に向かい合うことができるように環境を整えていきましょう。

#### 活動の指示が理解されていますか？

言葉だけの指示では理解できないことがあります。しなければならぬことを書いたり、図で示したり、モデルを示したりしましょう。

### 友達との関係

友達と仲良くしたいと思ってもうまくいかず、トラブルになってしまうことがあります。

#### 遊びのルールは理解されていますか？

わかっているようであっても、微妙なところは理解されていないことがあります。どうすればよいかその都度教えていきましょう。

#### 友達の気持ちを理解することが苦手ではありませんか？

友達の考えや思いをとらえることが難しいと、友達とうまく遊ぶことができません。相手がどのように考え、どのような気持ちであるかを教え、友達と一緒に活動できるようにしていきましょう。

#### 自分の思いを伝えることはできますか？

言葉で自分の思いや気持ちを伝えることができないと、直接的な行動に出てしまいます。日頃から言葉で表現できるように教えていきましょう。



いろいろなことを経験して、社会生活のマナーやルールを学び、自立に向けて歩いていきましょう。

地域の学童クラブや子ども会の活動に参加して、友達関係を広げ、社会的なスキルや対人関係のスキルを学びましょう。

少しずつ活動場面を広げ、いろいろな人と触れあいながら活動を楽しみ、社会性を伸ばしていきましょう。

**コンビニ、スーパーでの買い物**

買い物の仕方を覚えましょう。  
お金の使い方を覚えましょう。  
ほかのお客様の迷惑にならないように行動しましょう。



**電車やバスの利用**

電車の切符の買い方、改札の利用の仕方を覚えましょう。  
バスの乗り方、降り方を覚えましょう。  
乗り物に乗ったときのマナーを覚えましょう。



**レストランでの食事**

メニューを見て頼むことを覚えましょう。  
食事が出てくるまで静かに待ちましょう。  
困ったことがあったときは、お店の人に言いましょう。



**友達の家遊びに行ったとき**

「こんにちは・さようなら」のあいさつをしましょう。  
「ありがとうございました・ごちそうさまでした」とお礼を言いましょう。  
おうちの人に迷惑をかけないように、静かに遊びましょう。



**塾やスポーツクラブで**

先生の指示をよく聞き、約束を守りましょう。  
友達と助け合い、協力しましょう。  
疑問に思ったことやわからないことは、質問しましょう。







## 役立つ情報



**発達障害情報・支援センター** <http://www.rehab.go.jp/ddis/>  
(国立障害者リハビリテーションセンター)

発達障害に関する基本的な情報や発達障害の特性と対応、発達障害者を支える制度・施策、日本の取組や世界の動きなどに関して最新かつ信頼できる情報を見ることができます。

**発達障害教育推進センター** <http://icedd.nise.go.jp>  
(国立特別支援教育総合研究所)

発達障害のある子どもの支援・指導方法、発達障害に関する研究や教材、支援機器を見ることができます。また、教員向けの動画による研修講義や、国の施策・法令なども見ることができます。

**一般社団法人 日本発達障害ネットワーク (JDDネット)** <http://jddnet.jp/>

発達障害に関する各種研修や、国に対する要望などの情報を見ることができます。

**とちぎの子育て情報サイト 笑顔いっぱい**

<http://www.pref.tochigi.lg.jp/kodomo/kosodatesien/index.html>

子育て支援施設・子育てに関する相談窓口など、栃木県内の子育てに関する情報を見ることができます。

**とちぎ医療情報ネット** <http://www.qq.pref.tochigi.lg.jp/jp/ap/qq/men/pwtpmenuult01.aspx>

栃木県内の医療機関等に関する情報を見ることができます。

**栃木県障害者福祉ガイド** <http://www.pref.tochigi.lg.jp/index.html>

栃木県ホームページのサイト内検索ボックスに「障害者福祉ガイド」と入力し検索  
栃木県庁本館2階、県民プラザで有償配布もしています。

栃木県の障害者福祉施策全般について、福祉サービスに関する情報を見ることができます。

## 栃木県発達障害者支援センターふぉーゆう

〒320-8503 栃木県宇都宮市駒生町3337-1  
(とちぎりハビリテーションセンター内)

TEL 028-623-6111

FAX 028-623-7255

Eメール [hattatsu-kouji@pref.tochigi.lg.jp](mailto:hattatsu-kouji@pref.tochigi.lg.jp)

栃木県発達障害者支援センター

検索